

令和3年3月 第41号

# ひまわり



編集・発行  
**茨城県児童館連絡協議会**  
 東茨城郡大洗町磯浜町8249-4  
 茨城県立児童センターこどもの城内  
 電話 029-266-3044  
 F A X 029-266-3045  
 e-mail:kodomo3045@outlook.jp  
 http://www.kodomonosiro.jp/

## ありがとう「こどもの城」

茨城県保健福祉部 子ども政策局少子化対策課

課長 川和田 由紀子

今年度は新型コロナウイルス対応に追われた一年でした。児童館の運営も感染拡大に伴う臨時休館などの対応をはじめ、感染症対策を講じつつ子どもたちの育ちの場としての活動をどのように両立させるのか、関係者の皆様には手探りの中で知恵を絞り、大変なご苦労をされたこととお察しいたします。

このような中ではありますが、茨城県では県立児童センター「こどもの城」を令和三年三月末をもって閉館することといたしました。「こどもの城」は昭和五六年の開館以来、全国でも珍しい宿泊施設併設の大型児童館として多くの皆様にご利用いただいてまいりました。中二階のあるお部屋のわくわく感や人気のうどん打ち体験、季節毎の楽しいイベントなど、利用された方々には懐かしい思い出が尽きないことと思いますが、施設の老朽化と少子化に伴って宿泊者が従前の半数になるなどの課題を踏まえ、大変残念ではありませんが閉館することとなった次第です。これまでご利用いただいた皆様、そし

て関係者の皆様に心からのお礼と感謝を申し上げます。

児童館が利用対象とする十四歳までの年少人口は県内で昭和六十年に約六十三万人でしたが、平成三十年には約三十五万人と半減してしまいました。「こどもの城」は閉館になりました。でも、かけがえのない子どもたちを社会の宝として健やかに育てていきないうちから、今後とも活動させていただきたいと思っております。児童館の運営に携わっている皆様の日頃のご努力に敬意を表しますとともに、子どもたちが気兼ねなく集団活動できる日が一日も早く来ることを願ってやみません。

## 子ども理解の普遍性

一般財団法人 児童健全育成推進財団

理事長 鈴木 一光

ヒトの能力は、記憶力と判断力と独創力で構成されています。今までに見聞きした知識や経験を記憶してつむぎ、時々的確だと思ふ判断を繰り返して自分らしい未来を拓いていきます。生活の中で、見る、聞く、想像する、の

三つの認知機能のどれか一つが低いと、学習の土台となる記憶力の発達が阻害

されて適切な判断が狂います。

この認知機能が低いレベルであることを親にも学校の先生にも気づかれずに卒業して社会に出て、周囲の人々に疎んじられ、本人は善悪の区別もつかないままに非行に流される少年たちがいます。このような「反省以前の子ども」の事例に少年院で数多く接した児童精神科医の宮口幸治著『ケーキの切れない非行少年たち』は、褒めたり、考えさせるだけでは効果がなく、認知機能を構成する、記憶、言語理解、注意、知覚、推論、の五要素を遊び体験を通して「自己への気づき」と「自己評価の向上」を図る処遇を推奨しています。

自己覚知の方法として、他人から見られている、自分の姿を鏡で見る、自分の声を聴くなどがありますが、グループワークはメンバー同士、お互いに密に観察し合っているのが抜群の効果があります。加えて自らが「教師役」を務める機会を順番に与えられると、メンバー全員の社会面、学習面が向上するそうです。

何のことはない、大切なことは児童館が日々実践し続けてきたことです。これからも矜持をもって児童館活動を継続していきましょう。

## こどもの城の閉館にあたって

茨城県児童館連絡協議会

会長 森田 聡

(茨城県立児童センターこどもの城所長)

こどもの城は、三十八年間の使命を終え今年三月で閉館になります。この間、県内唯一の大型児童館として、子どもたちの成長を支える宿泊体験や自然体験ができる場所として活動してきました。また、県内五十二の児童館を会員とする茨城県児童館連絡協議会の事務局として、児童館相互の連絡や提携、児童館職員の資質向上のための研修等を行ってきました。早いもので、こどもの城所長そして茨城県児童館連絡協議会長として今年で二年になりました。その間、各児童館の館長や職員の皆様に支えられ何とか務めることができました。

「子どもは家庭で生まれ、学校で学び、地域で育つ」と言われています。地域には地域の、家庭や学校にはそれぞれの役割があります。大事なものは、それをまずしっかりと確認し、共に協力して子どもたちを育てるといふ協育の姿勢だと思います。県内の各児童館においては、親子での体験活動や異年齢の子どもたちによる自然体験活動等、いろいろ工夫して取り組んできました。

こどもの城でも、子どもたちが学校や家庭では、なかなかやれなかったことやできなかったことを

やろうと取り組んできました。

学校で学んだ知識を、遊びや体験により知恵に変え、この変化の激しい社会の中で「生きる力」を身につけさせたいと考えました。そのため、時間にとらわれず、失敗を恐れずにいろいろな体験をさせてきました。失敗からは、学ぶことがたくさんあります。

そして、あきらめず、成功するまでやり続ければ、失敗ではありません。

危険だからと学校や家庭で、なかなかできないこともどんどんやらせました。やってみせて、やらせてみて、ほめてあげるにより安全なやり方や危機管理能力が身についたと思います。

火起こしや薪割りなどは、子どもたちは夢中になってやりますが、なかなかうまくいきません。

しかし、試行錯誤しながらもあきらめずに続けると「マッチのように、木を細くした方が火がつきやすい。細い木からだんだん太くした方が良い。」「ナタは、振り上げて割るのではなく、薪に食い込ませてから一緒に振り下ろして割る方が安全で良い」等、体験を通して学んでいきました。

自分の力で、できた時の表情は素晴らしいものでした。このような成功体験を積み重ねることにより自己肯定感を育てることができたと思います。

こどもの城は閉館になりますが、県内の各児童館においては、子どもたちや保護者が気軽に集える場所として、そして子どもたちの健全育成やそ

れを支援する指導者の育成の場所として、今後一層発展して欲しいと思います。



2020/11/29

# 児童館紹介

## ひたちなか市那珂湊児童館

館長 鈴木 秀文

那珂湊児童館は、ひたちなか市の沿岸部、観光地として賑わう「おさかな市場」の目と鼻の先に位置する、市内唯一の児童館です。昭和四十五年に開設された旧愛郷児童館を、施設老朽化に伴い、平成十八年に現在地へと移転しました。

月替わりのテーマで工作を楽しむ「わくわく広場」、小学生に人気の「硬筆・絵画教室」、二〜三歳の子どもたちがプレ幼稚園として親子で通う「親子ふれあい教室」など

館主催事業のほか、地域住民の活動として、子どもサロンや中学生向けの無料塾も開催しています。

午前中は乳幼児とその保護者がのんびりと過ごし、午後にな



ると学校を終えた子どもたちがちらほら来館。昔教室に通っていた高校生たちが、テスト期間中の息抜きと言いながら立ち寄ることも。どの子が来ても、厚生員の先生が一人ひとりの名前を呼びながら「〇〇ちゃんよく来たね」と出迎えるのが、ここ那珂湊児童館の日常です。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった市内のイベントが多数ありましたが、児童館のメインイベントとして、子どもたちが毎年楽しみに待っているクリスマス会は、感染症対策を十分に講じることにより実施することができました。参加した子どもたちからは「サンタさんにプレゼントをもらえてうれしかった」「工作が楽しかった」など嬉しい感想が寄せられました。家庭や学校以外で遊び・学び・発見の場を提供し、子どもたちに寄り添う児童館として、これからも運営を続けていきたいと思っています。



坂東市児童福祉

センターは坂東市

の中心に位置し、

昭和五十九年四月に開館しました。

壁面が赤いロボットを横した児童福祉センターは、公園も併設しており、午前中は

乳幼児を中心とした親子連れが来館し、午後は小学校から下校した児童

がプレイルームにあるトランポリンや、公園で元気に遊んでおります。また、保育園の遠足にも使われるなど幅広く利用されております。定期的に親子で楽しめるイベントを企画し、七夕飾りの装飾やクリスマスリースづくりなどを実施し、毎回好評を得ております。今年度は、コロナ禍によりイベント等は開催を自粛していますが、収束を迎えた際は今まで以上に活気ある活動ができるよう心がけてまいります。

今後関係団体と協力しながら、児童の安心・安全な環境づくりと、来館した皆様に喜んでいただけるよう取り組んでまいります。

坂東市児童福祉センター

センター長 木村 紀子



かすみがうら市立稲吉児童館

係長 岩田 明美

かすみがうら市立稲吉児童館は、昭和六十年に開館しました。

児童館の前には逆西公園があり、お天気の良い日にはたくさんのお母さんが訪れ、児童館の貸し出し用砂場セットで賑やかに遊ぶ姿も見られます。

今年度は、コロナの影響で毎月実施していた幼児親子イベント「なかよしあつまれ」や、その他行事等見合わせることもありました。その後コロナ対策を取り入れながら幼児親子イベントを再開し、十月はハロウィンのお菓子入れ、十二月はクリスマスに向けて

リース作り、マカス作りを行いました。また、ボランティアの方々とハンドベルの演奏を楽しむ事も出来ました。このように地域の皆さんの協力で交流を深めています。まだまだコロナの収束は見られませんが、人数制限などのコロナ対策をしっかりと



り取り入れながら皆さんに「楽しかった！また来ます！」と喜んでいただけるような地域に根ざした児童館にしていきたいと思えます。

阿見町二区児童館

児童厚生員 高瀬 麻祐美

二区児童館は、平成六年四月に、保育所併設の複合施設として開館しました。

当児童館では、乳幼児と保護者を対象とした『育児サークル』を行っており、親子遊びを楽しんだり、親子の交流の場にもなっています。また、『うごく児童館』では、児童館をとおび出している音楽会や劇会の企画をしています。小学生の活動は、体験教室やクラブ活動、地域交流会などを行っており、毎回多くの子ども達が、楽しく参加してくれています。また、『母親クラブ』には、季節のイベントや遊びを企画して楽しむ乳幼児親子と、人形劇や絵本の読み聞かせを行うグループがあります。



人形劇は、乳幼児親子や保育所の子ども達にも大変好評です。

紹介したいずれのイベントも、コロナ禍という事で、中止や縮小を余儀なくされてしまいました。今後の収束を願いながら、利用者の方が安心して過ごせる児童館を、目指していきたいと思えます。

つくば市立桜南児童館

館長 前川 雅一

つくば市立桜南児童館は、昭和六十年四月つくば科学万博が開催された時期に開館しました。

児童館の全景は、船の形をした子どもたちに親しまれる外観に造られています。館内は、広いプレイルームが特徴で、図書室、集会室、図工室、児童クラブ室などがあります。周辺には、保育所と幼稚園が隣接しスポーツ公園や住宅地に囲まれた閑静でこどもの成育には適した環境にあります。



午前中は、幼児の親子グループや母親クラブの団体が遊びや行事活動を通して交流の場として使用され、午後は小学校から多くの児童が来館し、ブロック遊びやドッジボール、竹馬、一輪車などで元気一杯過ごしています。

行事活動は、スポーツクラブでドッジボールの練習をしたり、工作教室やお楽しみ会など工夫しながら実施しており、たくさん子どもたちが参加しています。

これからも、子どもたちに親しまれ安心安全に過ごせる児童館であるよう環境づくりに取り組んでいきたいと思えます。

**つくば市立吉沼児童館**

館長 星野 美佐枝

つくば市立吉沼児童館は、平成四年四月に開館した赤い屋根がかわいい児童館です。

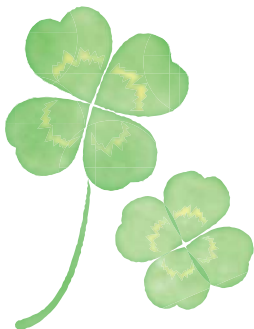
開館以来、子どもたちは、学校が終わると児童館に急ぎやってきて、思い思いに、ドッチボール、卓球、サッカー、鬼ごっこ・・・と、毎日元気にはしゃいでいます。

また私たち児童館の職員も、季節に合わせたイベントや工作など、子どもたちがわくわくできるようなイベントを企画して、職員も子どもたちも保護者も笑顔あふれる活動を行っています。

今年は、コロナの影響で、子どもたちが楽しみにしている児童館まつりや市内の児童館対抗ドッジボール大会などの大きなイベントも中止となっ

てしまいました。しかし、しっかりと感染予防対策をとり、無料工作教室、ハロウィンやクリスマス会でもみんな楽しく過ごすごうことができました。

まだまだコロナ禍の終息はみえませんが、これからも子どもたちが安心して楽しめるイベントを企画して、児童の健全育成に取り組んでいきたいと思っています。



**職員研修会で**

**得たもの**

みんなで育む 子どもたちの未来

**第一回**

つくばみらい市小絹児童館

高梨 仁美

茨城県立児童センターこどもの城で開催された、令和二年度第一回児童館等職員研修に、参加しました。

助川公継先生の「健全育成論」の講義では、健全育成の理念・内容・方法等についてわかりやすく教えていただきました。

子どもと育成環境（子どもの育ちの変化）の中には、新型コロナウイルスによるストレス、不安、集中力の低下などの影響も含まれる事を再認識しました。

児童館施設の特性、社会的責任を学び、健全育成五つの



目標について具体的な例を挙げ、わかりやすく教えていただきました。

木村久美子先生の「安全指導・安全管理」の講義では、事故発生メカニズムを把握し安全教育、安全管理を行うことで、事故事件防止に繋げることを学びました。

小絹児童館では、職員がヒヤツと感じた事が直ぐに記入できる「ヒヤリ・ハット」報告書を設置しています。時には利用者の目線となり危険を予測することもありました。

講義の中で先生が一冊の本を紹介されました。ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」山極寿一著

私も拝見させていただきましたが、他人の立場に立って危険を予測することは、最大の安全保障だと感じました。

本文に「危機管理の近道は、私たちの心の中にあるのだと思う。」とありますが、児童館の経験から思わずうなずいてしまいました。

今回の研修は、初心にかえる良いきっかけとなりました。



これからも健全育成の目標に向かって、子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を作りたいと思います。

## 第二回

### つくばみらい市立みらい平児童館

片野 祐美

つくば市荃崎交流センターで開催された児童館職員研修会に参加しました。講義内容は「地域福祉活動」と「児童の発達理論」です。

「地域福祉活動」では、池田幸也先生がクイズや自己紹介等、参加形式で講義を進めてくださいました。以前に比べ SNS 等の普及により人との関わり方が広くなる一方で関係がとも浅く、テレビやインターネットの多様化により、会話が

一方通行になってしまふことが懸念されているそうです。それだけでなく家族構成においても『核家族』と『ひとり暮らし』で全体の九割を占めている現代。私が勤めている地域であるつくばみらい市も他県より転入者が多く、近くに親族や頼れる人もいない方が多



いです。そのことから来館者同士の『共通の絆』や『お互い様の関係』を意識してつなげる、人との関わりの方の支援を行うことが大切であると実感することができました。

水口進先生の「児童の発達理論」では、ピアジェやエリクソンな

どの心理学者の発達理論を学びました。その中で一番考えたことは、子どもの心・気持ちを私たちが抱えてあげることの大切さです。そして、現場ではその状況や時期に応じて当てはめることはできませんが、その子ども自身を理論に当てはめたパターン化はしないということです。一人ひとり成長のスピードや性格、思考も個人差があり、個性もあります。そのことを忘れずに児童館という現場でどのような関わりができるのかを考え、来館者を見守り支援していきたいと思いました。

## 第三回

### つくば市立並木児童館

館長 成嶋 英樹

茨城県立児童センターこどもの城にて、令和二年度第三回児童館等職員研修会が開催され参加さ



せていただきました。

午前の研修では、昨年度で勇退された前つくば市立竹園西児童館長の久松先生の「児童館論I」の講義でしたが、長年に渡る児童館においての豊富な経験と知識から学ぶことができました。その中で、児童館においては児童だけではなく「その親（保護者）も一緒に見ている」感覚が大切であると教えていただきました。



また、参加する子どもたちが、それぞれの得意分野（特技）で喜べる、手作り行事の実践の必要性を話されていました。その中で、遊べない子どもにもこそ寄り添い手を差し伸べることが児童館職員の仕事であり、本来の児童館職員の姿・使命感であると説かれその大切さを学ぶことができました。



した。

次に、西木先生の実技を中心とした工作での「表現活動」の講義でした。材料はペットボトルや牛乳パック、紙コップ等、日常生活で手に入る物を使って作りました。

西木先生の指示で今から何を作るのか最初は教えてもらえず大変戸惑いましたが、いつの間にか「何ができあがるのか」と想像し集中している自分がいきました。

これこそが、想像力を引き出し集中させ、表現することの素晴らしさを楽しく体験でき、子どもたちが「作ることを楽しく感じる大切さ」や「遊びの大切さ」であると学ぶことができました。

今後は、研修で学んだものを日常の業務の中に還元し、子どもたちの健全育成に活かして行きたいと思えます。

## 第四回

### わかな学童クラブ

鶴川 智恵

第四回児童館職員等研修会に参加して。午前の

部では、茨城キリスト教大学の飛田先生より、【個別援助活動】として保護者支援について学びました。先生の話の中でもっとも心



に残っているのは、意見や要望を受けた時には、『感謝の気持ちで対応する』という事です。

要望や意見を頂く事は、自分では気づけなかった事を知るチャンスであり、それを考える時間は、自分自身の成長に繋がる・・・何事も肯定的に捉え、前向きに伝えられる様にすることが、保護者にとっても自分にとっても大切なのだと改めて感じる事ができました。



午後の【配慮を要する児童の対応】では、茨城大学教授の生越先生より現代における子ども達の置かれてある背景を踏まえながら、障害（個性）を持つ子どもにどのような支援をしていく事が必要かについて具体的に教えて頂きました。

私も実際に、支援を必要とする子ども達と向き合う中で、どの様にかかわる事が良いのかと試行錯誤中ですが、『その子が自分らしく安心して居場所を作る事』を何より大切に心掛けています。研修でも学んだ様に、出来る事はどんどん伸ばし、出来にくい所は、スモールステップを心掛けてあたたかく見守る。一人ひとりの思いを尊重しながら発達をサポートできるようにしていきたいと思えます。

支援員としては、まだまだ未熟ではありますが、今年度の研修で得た知識を活かし、子ども達により豊かな生活が送れる様に心掛けていきたいと思えます。

### 館長研修会

茨城県児童館連絡協議会

副会長 相澤 敏江

(つくば市立二の宮児童館)

毎年、茨城県児

童館連絡協議会総

会と合わせて五月

に開催される館長

研修会ですが、今

年度はコロナ禍の

ため感染予防対策

に十分配慮いただ

き九月に開催され

ました。研修会は、

午前中に講話、続

いて功労者永年勤



続表彰の後、午後から参加者間での情報交換会が行われました。

午前中の講話では、茨城県生涯学習・社会教育研究会会長 長谷川幸介先生の講話をお聴きしま

した。講話のタイトルが「子どもの育ちと児童館」でしたので、子ども達の支援について最新の

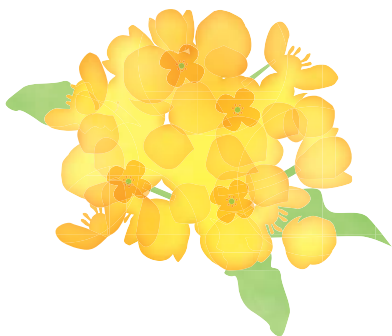
情報や状況のお話しと考えていたのですが、講話は人類の歴史から始まりました。人類の子ども

は生理的早産な未熟な哺乳類であること、「社会」は人類最大の発明であり幸せの装置であるなど興味深くお聴きしました。特に子どもは「社

会」に入るための冒険の旅人で、児童館は発達を支えながら社会的決まりを教える水先案内人であり、それには学校、家庭、地域の理解が必要なこと、Sympathyではなく相手の立場になって考えるEmpathyの共感性が児童館の現代性であるというお話が強く印象に残っています。講話は本当に楽しくあつという間の九十分で、もつとお聴きしたいと思いました。

午後の情報交換会では、参加者がグループに分かれてそれぞれの館の運営や管理などの現状を話し情報を交換いたしました。普段はなかなか知る機会のない他の市町村の児童館の情報を伺うことが出来、大変参考になりました。

新型コロナウイルスを予防しながらの研修で戸惑いもありましたが、児童館運営にとっても有意義で貴重な研修会でした。ありがとうございました。



### 資格認定者

令和二年度

児童厚生二級指導員資格認定者

(敬称略)

つくば市立吾妻西児童館 宮本 千以子

石岡市立児童館 伊藤 博美

茨城県立児童センターこどもの城 森田 聡

茨城県立児童センターこどもの城 宮田 彩乃

茨城県立児童センターこどもの城 新田 絢子

石岡市立児童センター 栗山 真樹子

つくば市立竹園西児童館 岡野 研

つくばみらい市小絹児童館 高梨 仁美

つくばみらい市小絹児童館 藤原 育子





永年勤続表彰制度は、茨城県児童館連絡協議会に加盟する児童館において十年以上児童館職員として活動し、顕著な功績のあった方を表彰する制度です。

(敬称略)

つくば市立上郷児童館	鷹巢浩子
つくば市立松代児童館	小林洋子
つくば市立松代児童館	木村裕美
つくば市立松代児童館	相島邦子
つくば市立竹園西児童館	稲葉麻依
つくば市立吉沼児童館	生稲千瑞子
つくば市立吉沼児童館	尾見幸江
つくば市立吉沼児童館	中山節子
つくば市立吉沼児童館	須藤尚美
つくば市立吉沼児童館	玉田美智子
つくば市立一の宮児童館	浮須幸恵



会長	県立児童センターこどもの城 所長 森田 聡
副会長	つくば市立二の宮児童館 館長 相澤 敏江
書記	坂東市児童福祉センター 館長 木村 紀子
研修委員	石岡市立児童館 館長 伊藤 博美
研修委員	阿見町学区児童館 館長 細沼 文恵
会計監事	水戸市ふれあいの館 館長 叶野 康子
事務局長	県立児童センターこどもの城 事務長 高橋 和孝
事務員	県立児童センターこどもの城 事務員 宮田 彩乃
事務員	県立児童センターこどもの城 事務員 佐藤 康丞

## 令和3年度 事務局

令和3年4月1日より事務局が変わります。  
お問い合わせは、下記をお願いいたします。

茨城県保健福祉部

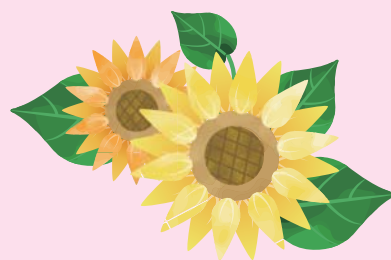
子ども政策局少子化対策課

担当：企画・結婚支援G

〒310-8555 水戸市笠原町 978 番 6

TEL (029) 301-3261 FAX (029) 301-3264

E-mail : shoutai@pref.ibaraki.lg.jp



## 令和 2 年度 茨城県児童館連絡協議会 事業報告

期 日	事 業 名	場 所	概 要
5/26	通常総会 (書面決議)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度事業報告及び決算報告</li> <li>・令和 2 年度事業計画、収支予算 (案)</li> </ul>
9/2	館長研修会 (25 名参加)	県立児童センター こどもの城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「子どもの育ち」と児童館の役割 講師：茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 先生</li> <li>・児童健全育成活動功労者永年表彰</li> <li>・情報交換会</li> </ul>
9/2	第 1 回役員会	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度事業計画について</li> <li>・児童館等職員研修会について</li> <li>・共同募金助成金について</li> </ul>
9/17	第 1 回 児童館等職員研修会 (90 名参加)	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「健全育成論」 講師：茨城女子短期大学 副学長 教授 助川 公継 先生</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「安全指導・安全管理」 講師：茨城女子短期大学 講師 木村 久美子 先生</li> </ul>
10/14	第 2 回 児童館等職員研修会 (91 名参加)	つくば市 荃崎交流 センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「地域福祉活動」 講師：茨城キリスト教大学 兼任講師 池田 幸也 先生</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「児童の発達理論」 講師 常磐大学 教授 水口 進 先生</li> </ul>
11/17	第 3 回児童館等職員研修会 (65 名参加)	県立児童センター こどもの城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「児童館論 I」 講師 前つくば市立竹園西児童館 館長 久松 正人 先生</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技 「表現活動」 講師 あとりえ えいむあっと 主宰 西木 理恵 先生</li> </ul>
11/17	第 2 回役員会	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童厚生員等研修会について</li> <li>・児童厚生員資格認定手続きについて</li> <li>・共同募金助成金事業について</li> <li>・機関誌「ひまわり」の発行について</li> <li>・永年勤続者表彰について</li> <li>・令和 3 年度児童館連絡協議会の運営について</li> </ul>
12/18	第 4 回児童館等職員研修会 (75 名参加)	県立児童センター こどもの城	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「個別援助活動」 講師：茨城キリスト教大学 教授 飛田 隆 先生</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 「配慮を要する児童の対応」 講師：茨城大学 教授 生越 達 先生</li> </ul>
12/18	第 3 回役員会	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌「ひまわり」原稿依頼について</li> <li>・永年勤続者推薦について</li> <li>・次年度役員選考について</li> </ul>
1 月 ～ 3 月	児童健全育成活動 功労者顕彰事業		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被表彰者・団体の推薦</li> </ul>
	児童厚生二級指導員 資格申請		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童健全育成推進財団への申請・登録</li> </ul>
	機関誌「ひまわり」作成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿執筆依頼</li> <li>・原稿集約、校正</li> </ul>
3/31	機関誌「ひまわり」発行		<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌「ひまわり 41 号」 500 部</li> </ul>